

～カサンドラ先生紹介号～

Newspace

郡山東高校新聞速報版100号

編集・発行 郡山東高等学校新聞部
発行人 松本 優衣
編集人 荒川 理薫
〒963-8832 福島県
郡山市山根町13-45
電話 024-932-0898

カサンドラ先生 ようこそ郡山東高校へ

新たなALITの先生が着任

郡山東高校は10月1日より後期が始まりました。前期の最終日には芸術鑑賞会〜初めての歌舞伎教室〜が行われ、生徒たちは日本の伝統芸能を鑑賞し楽しんだ。ボランティア部では、現在注目浴びている、フードドライブという新たな取り組みを始めた。先週月曜日には新しいALITのカサンドラ先生が着任した。

10月12日火曜日郡山東高校に新しくALITの先生であるCassandra(カサンドラ)先生が来校した。それを受けて、郡山東高校新聞部はカサンドラ先生にインタビューを行った。

Q 母国の好きな場所はどこですか？
A カリフォルニア州です。とても綺麗なビーチがあります。

Q 趣味は何ですか？
A 運動をすることです。バレーボールやバスケットボール、ランニングをします。

Q ALITになった理由を聞かせてください。
A 実際に日本を訪れて驚いたことなどはありますか？
A 親切な人が多くて、とてもいいところだと思います。最後に東生にメッセージをお願いします。



→ALITとして生徒に英語を教える意気込みを優しい表情で語るカサンドラ先生

新聞部員募集

私たちと一緒に
剣ではなくペンで
戦いませんか？
さあ君も運動部系文化部へ

フードドライブを身近に ボランティア部の取り組み

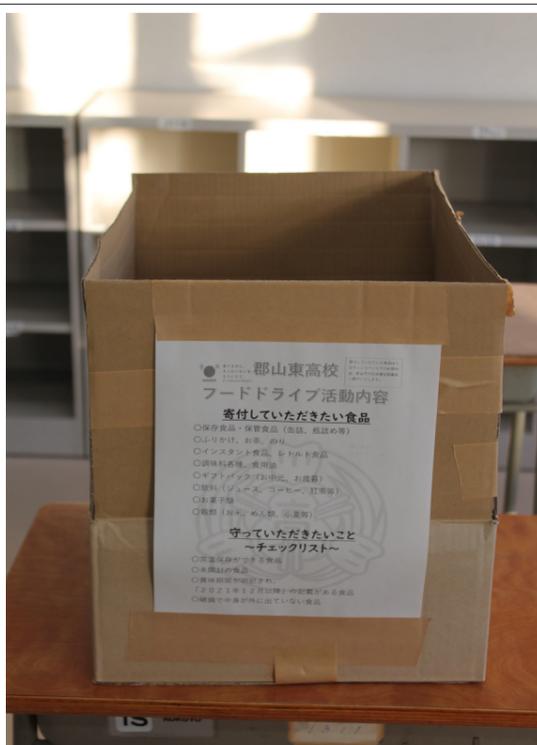
今年8月から、本校ボランティア部ではフードドライブという活動を行っている。この企画について詳しく聞く。

→各教室に設置されている、余った食材を入れる収集箱

今月8日から、本校ボランティア部ではフードドライブという活動を行っている。この企画について詳しく聞く。

ために東高新聞部はボランティア部部長の田村奈菜さん(2年)に取材を行った。フードドライブでは、家に余っていて保存期間が長く、開封前のレトルト食品やふりかけなどを集めている。世界全体で見ると9人に1人は貧困であるにも関わらず、日本では1年間で東京ドーム55個分の食材が処分されている。注目が集まっているフードドライブを本校ボランティア部が行っている。

この活動をより身近に感じてもらうためにハロウィンと関連づけ、「フードドライブ」食品ロスを減らそう」という企画を始めた。田村さんは「企画を通して、より多くの人に食品ロスについて知ってほしい」と笑顔で語った。(高菜)



←フードドライブについて説明する田村さん

歌舞伎に触れて知ってもらおう 芸術鑑賞会 はじめての歌舞伎教室

先月30日東高の大体育館において芸術鑑賞会が行われた。実際に生徒が歌舞伎の殺陣やセリフを読み、化粧法の限取を体験し会場は大盛況の上



→歌舞伎の魅力や今後の目標について話す立花さん



←演目「五条橋」

がりを見せた。殺陣体験では、6人の代表生徒が舞台上上がった。木刀を使用し、戦っているように見えるコツや立ち廻り方を学んだ。

歌舞伎の演目「五条橋」では、殺陣の演技があり、生徒たちは、物語に引き込まれるように真剣なまなざしで鑑賞していた。

長唄三味線の迫力のある「すこい」「かっこいい」などと、口々につぶやき、興味を持つ生徒が多く見られた。

出演者の立花志十郎さん(45)は「歌舞伎はいいものだから伝える。そうではなく、多くの人に愛されたから現代まで

→殺陣の演技のコツについて学ぶ代表生徒たち



→殺陣の演技のコツについて学ぶ代表生徒たち

東郷手記

中学2年生のときに私はJRC委員に所属していた。仕事内容は主に募金活動や花壇の手入れ、朝の玄関掃除などのボランティア活動が中心だ。人数調整で入った委員会だったため、私は積極的に活動してはいたが、ある日の放課後、私は募金活動をするようになった。場所は大きなスーパーマーケットの前だった。募金をしてくれた子どもには風船をあげることにしていた。私もペアの友人もこうした活動をしたことがなかったので、恥ずかしくと面倒くささず小さな声で「募金お願いします」と言っていた。

募金をしてくれる人はいなかった。人が目の前を通っても声をかけることなく、ただ通り過ぎるのを見ていた。▼他のペアに目を向けると、多くの人が募金をしていて、用意した風船が足りなくなっているペアもいた。それを見ていた私は、これは面倒くさいなどと考えている場合ではないと思った。休憩中にペアとどうすればよいかを話し合った。ペアの友達は私たちの声の小ささがいけないのではないかと話した。私は同意し、積極的な姿勢で行こうと互いに確認し合った▼休憩後、私たちは大声で道行く人々に募金を呼びかけた。また、積極的に人が多い場所に移動し、子どもに風船を配った。募金活動は、はかどった。風船は何度も補充が必要となり、面倒くさいなどという気持ちもなくなり、募金活動が楽しくなってきた▼もし、初めの姿勢で募金活動を続けていたら面倒くさいと思うだけで達成感を味わうことなく終わっていたらどうだろうか。そうならなかったのは、行動を変えたからだと思う。今ではボランティアに参加することに心がける。(らいあ)

